



小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

血液は、どんなはたらきをしているの



体内に酸素や養分を運んだり、体温を一定にしたり、
さいきん細菌をやっつけたりするのに役立っているのさ。

血液は、体内の各部分に必要なものを運び、いらぬものを運び出す

血液の大切なはたらきの一つは、全身に酸素や養分を運び、体内にできた二酸化炭素を外に運び出すことです。

たいていの動物は、食物からとった養分を、酸素を使ってエネルギーに変えて、生きています。そのため、数分でも酸素が体内に運ばれなくなると、死んでしまいます。また、体の各部分で酸素がエネルギーをつくり出すとき、二酸化炭素ができます。二酸化炭素が体内にあると、体にとって害になります。そのため、酸素を運んできて二酸化炭素を運び出す血液のはたらきは、重要なのです。

全身をまわってきた、二酸化炭素をふくむ血液は、肺で、吸いこんだ空気中の酸素と二酸化炭素を交かんし、二酸化炭素を体外に出して、酸素をとりこみます。腸できゅうしゅう吸収された養分を全身に運んだり、体内でいらなくなったものを、おしっこやあせなどにして体外に出せるように、運んでいくのも血液です。

血液は、体温を一定にたもち、細菌から体を守る

人間やイヌ、鳥などのように体温が一定の動物は、血液が、体温を一定になるように調節するはたらきをしています。また、血液の中の成分である白血球は、体内に、病気のもとになる細菌などが入ってきたとき、細菌をつつみこんで食べてしまって、体を守る役目もしています。



酸素でエネルギーをとり出し、後に、
二酸化炭素ができるのは、
ガソリンが燃えるのと同じだね。